

景観づくり活動部門 受賞

名称	大田区池上梅園茶室「清月庵」の移築・復元活動
受賞者 (活動 団体)	中島恭名 (翠月会)
活動 場所	池上 2-2-13 (池上梅園内) (「清月庵」のある場所)
写真	
活動 概要	<p>池上本門寺前にあり、大正時代の数寄屋造建築家である川尻新吉・善治親子が自らのすまいを兼ねた料亭であった「西田邸」。昭和 58 年 (1983 年) に、その「西田邸」が売却されると聞いた、地元住民の中島恭名氏らが、「池上のみどりと環境を守る会」を設立して保存運動を展開し、その結果、平成元年 (1989 年) に池上梅園に移築、一般に公開された。</p> <p>移築されてからも、中島恭名氏は、茶室の清掃マニュアルを作成するなど、建物の保全に関わり続けている。</p>
表彰 理由	<p>清月庵は建築物や景観としての高い価値のみならず、地域に残る歴史・文化を、地域住民自らが認識し、守り育てることの可能性と重要性を示す貴重な資源である。</p> <p>清月庵は、池上本門寺前にあった西田邸の茶室を保存したものである。西田邸の取り壊しと跡地へのマンション建設計画に対し、中島氏をはじめとする「池上のみどりと環境を守る会」は区への陳情や署名活動、西田邸の価値を広く認めてもらうための一般公開など、粘り強い保存運動を展開した。最終的には貴重な歴史的建造物を住民の力と資金 (中島氏の自費) で一部保存を実現した。過去の活動ではあるものの、これら一連の保存活動と保存の実現は簡単に成し得るものではなく、その点が高く評価された。現在は、「池上のみどりと環境を守る会」としての積極的な活動はないものの、池上梅園に移築され区民の財産として公開されている清月庵が適切に管理・活用されるためのサポート活動を継続して行っており、この点も評価された。</p> <p style="text-align: right;">(委員：杉田 早苗)</p>

景観づくり活動部門 受賞

<p>名称</p>	<p>東京都京浜島工業団地協同組合連合会による環境美化活動等</p>
<p>受賞者 (活動 団体)</p>	<p>東京都京浜島工業団地協同組合連合会</p>
<p>活動 場所</p>	<p>京浜島</p>
<p>写真</p>	
<p>活動 概要</p>	<p>東京都京浜島工業団地協同組合連合会（以下、連合会）が平成6年（1994年）に環境委員会を設置し、それから定期的に島内一斉清掃を実施するとともに、道路の緑地帯等の清掃やプランター（20基）の植栽管理を実施し、連合会所属企業全社をあげて環境美化活動に取り組んでいる。</p> <p>その他には、樹木に由来する道路名称（さざんか通り、もみじ通り、さつき通り等）を付ける取り組み、島内企業の高度な技術により製作された独自の柵の設置（※1）、女子美術大学の大学生（総勢121名）による碎石置場の擁壁への壁画作成などの取り組みも行ってきた。</p>
<p>表彰 理由</p>	<p>臨海部の環境美化活動を高く評価する。工業地帯という、一見すると景観価値を重視されない、各企業にもメリットが薄いと思われる地域で、継続的な景観向上活動が組織的に行われていることは特筆に値する。また、企業の技術をうまく用いて、柵の整備などにコミットしている点などハードソフトともに関連する事業展開をしている点が高く評価できる。環境美化という地道な活動であるが、長年に渡る活動を継続していることや、現在月2回という高い頻度で島内一斉清掃を実施していること、大田区の特徴ともいえる工業エリアで事業者の努力によって活動が実施されていること、工業団地という殺風景になりがちな場所での風景悪化を緩和させていることなども評価できる。企業がまとまって、地域の緑地、環境の整備、景観向上に長年取り組んでいる姿勢が素晴らしい。</p> <p>なお、あえて言えば活動の内容については工業団地の特性をもっと活かせるように良くなると考えられる。今後の研究課題とされるとより一層有意義な活動となるのではないだろうか。</p> <p style="text-align: right;">（委員：鈴木 邦成）</p>